

ビーストマスター 3000EJ



BEAST MASTER 3000EJ
 spec=ギア比=3.9。最大ドラグ力=20kg。自重=810g。糸巻量PE=4号-450m、5号-350m、6号-300m、8号-200m。最大巻上長=70cm/ハンドル1回転。ハンドル長=75mm。ベアリング数=BB10/ローラー1。実用巻上持久力13kg。最大巻上速度(分)=195m。実用巻上速度(分)=163m(1kg負荷)、128m(5kg負荷)、96m(10kg負荷)。本体価格=13万5000円

●最大巻上速度毎分195メートルのハイパワーを発揮する高耐久ブラシレスモーター「GIGA-MAX MOTOR」と、ビーストマスター 3000XPの2倍の耐久性を成し遂げた強化ギアシステムを採用。巻き上げスピード、巻き上げ時間、停止時間、ジャークの強さを設定し多彩なアクションを生み出す電動ジギング対応の新機能ニュー EJモードを搭載。ルアーのジギングはもちろん、スルメイカ、ヤリイカ、中深海、泳がせ釣りなど幅広い釣り物で活躍する。

▲電動リールを両手で包むようにホールドするのが松田さんのスタイル



【探見丸スクリーン】
 ●リールのディスプレイにカラードット液晶を採用。従来の簡易魚探機能から大幅に進化し、海底水深、海底形状、群れの大きさや魚体長(アキュフィッシュ)などが表示される(アキュフィッシュ機能は、アキュフィッシュ対応の親機搭載船に限る)。



【NEW EJモード】
 ●電動ジギング対応の新機能「NEW EJモード」。巻き上げスピードが31段階、巻き上げ時間と停止時間を0.1~10秒まで0.1秒単位で設定できる「オートジャークモード」、ジャークの強さをH(High)、M(Middle)、L(Low)の3パターンから選択できる「アドバンスモード」、ボタンを押している間電動で巻き上げる「マニュアルジャークモード」の3つのモードを搭載。多彩なジグアクションを演出する。



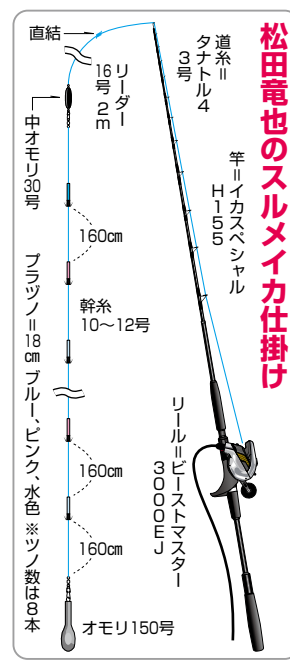
【GIGA-MAX MOTOR】
 ●ビーストマスターシリーズのみに搭載される、パワー、スピード、耐久性を備えたブラシレスモーター。高温時においてもパフォーマンスが落ちず、ビーストマスター3000XPと比べ、モーター制御の最適化で最大巻上速度約15パーセントアップを実現。



【NEW 海底・魚群水深表示】
 ●リールカウンター画面に水深と海底形状(フラット、カケ上がり、カケ下がり)、魚群がシンプルに表示される簡易魚探機能。



【ファイアマッハシステム】
 ●主要回転軸に多くのS A-RB(ボールベアリング)を配置し、大口径スプールを滑らかに逆回転させ、狙いのタナまで素早く仕掛けを到達させる。



松田電也のスルメイカ仕掛け

投入と仕掛けの回収を頻繁に繰り返すうえ、比較的釣り場が深いスルメやヤリイカなど沖のイカ釣りでは、この優れた耐久性が大きなアドバンテージになるといえる。

「釣り場が深いときは、しっかりと底タチを取っても糸フケが出るので、アタリと同時に全速で5メートルくらい巻き合わせして掛けるのがコツです。このリールは、スピードレバーを押し込むと瞬時に全速になるレスポンスの早さが特長です」

「釣りが深いときは、しっかりと底タチを取っても糸フケが出るので、アタリと同時に全速で5メートルくらい巻き合わせして掛けるのがコツです。このリールは、スピードレバーを押し込むと瞬時に全速になるレスポンスの早さが特長です」



★勝浦沖のスルメは年の瀬も大いに期待できそう

乗りました。スロー巻きで速度は、ゆっくりで5、早くで10、平均で7~8くらいです。このリールは31段階で速度調節できるので、流しのたびに变化するイカの乗りに合わせて微妙なコントロールも可能です」

後半は水深100メートルから徐々に浅くなる斜面を大流しで狙う展開となり、松田さんは単発ながら着実に釣っていく。

「カラーの探見丸スクリーンで地形の変化や海底までの水深、魚群などが手元で視認できるので、群れが宙層に浮くことも多いです」

この日は派手な多点掛けこそなかったものの、松田さんは胴長30センチ級のスルメ14杯を釣り上げた11時の沖揚がりを迎えた。探見丸スクリーン、ニューEJモードなど数かずのシマノの最新機能が搭載されたビーストマスター3000EJ。スルメやヤリイカはもちろん、マダイや青物、中深海など、関東沿岸の大半の釣りをこの1台でカバーできそうだ。



★感度と操作性を極めたイカ竿「イカスペシャルH155」とビーストマスター 3000EJの組み合わせで重量感のある乗りを満喫

★水深200メートル付近で乗せたスルメイカの多点掛けでビーストマスター 3000EJのポテンシャルを発揮

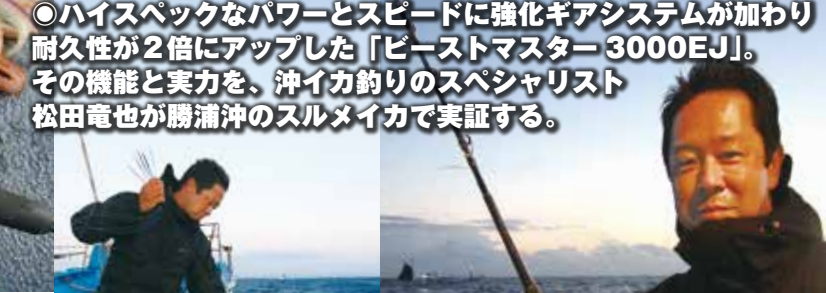
▶パワーロスを抑えて疲労を軽減するXシートエクストリームガングリップは手持ちで誘う釣りに最適

TECHNOLOGY OF S

最新シマノテクノロジーの実証 テクノロジー・オブ・エス vol.79

タフな沖イカ釣りを征する最先端機能 ビーストマスター 3000EJ

●ハイスpekなパワーとスピードに強化ギアシステムが加わり耐久性が2倍にアップした「ビーストマスター 3000EJ」。その機能と実力を、沖イカ釣りのスペシャリスト松田電也が勝浦沖のスルメイカで実証する。



●プラツノを手の中に収めながら取り込むエキスパートの技

●探見丸搭載船であれば、探見丸と通信しながら水深や海底の様子、アキュフィッシュ対応の船なら魚群も表示できる

「過酷なスルメイカ釣りでガンガン使ってもピクともしない耐久性を備えたタフな電動リールです」と、シマノフィールドテスターの松田電也さん。

最新電動リール「ビーストマスター3000EJ」は、ビーストマスター3000XPの2倍の耐久性を備えた強化ギアシステムと、ブラシレス構造でモーター寿命が飛躍的に長くなったギガマックスモーターを搭載。

その後は水深200メートル前後を転々と流して拾い釣りが続いたが、いい群れに当たると3点掛けで取り込む場面も。「底からスロー巻きで探って、10メートル付近でバタバタと

投入と仕掛けの回収を頻繁に繰り返すうえ、比較的釣り場が深いスルメやヤリイカなど沖のイカ釣りでは、この優れた耐久性が大きなアドバンテージになるといえる。

スルメを狙って釣りしたのは外房勝浦港の釣丸。勝浦沖の水深200メートル付近で第1投。松田さんは底付近でシャクリを繰り返して、早々に乗りをとらえて胴長30センチ級を手にした。

「釣りが深いときは、しっかりと底タチを取っても糸フケが出るので、アタリと同時に全速で5メートルくらい巻き合わせして掛けるのがコツです。このリールは、スピードレバーを押し込むと瞬時に全速になるレスポンスの早さが特長です」

毎分195メートル、5キロ負荷でも128メートルという巻き上げ速度はビーストマスター3000EJならでは。大型スルメを多点掛けしても余裕で巻き上げるパワーを持ち、入れ掛かり時、移動を繰り返すときも余裕で対処できるという。